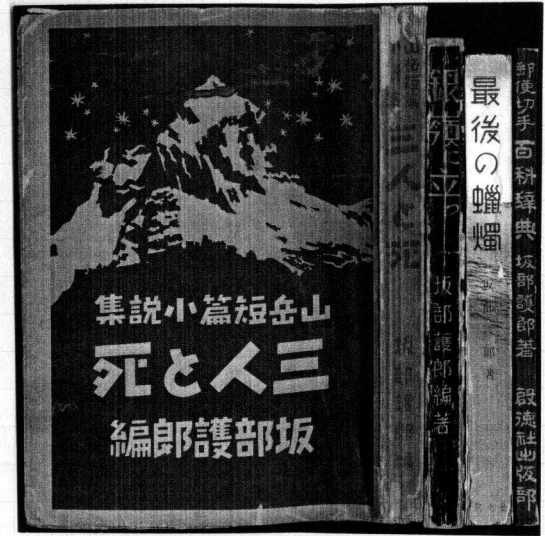


坂部護郎 ミナト 翻譯家、小説家。明治二十年五月十七日東京生れ、昭和四十七年五月十三日没（八七—九七）。筆名岩瀬善久男、長岡忠郎等。陸軍士官學校卒。大正八年任官、十年歐洲留學。東京駐劄オーストリア總領事代理を務め、昭和八年以降會社重役。この間オーストリア政府より國家功勞章授勳、ドイツ政府よりフンボルト文化賞授賞。一方少年時より郵便切手蒐集に勵み、終戦時送らばその數は萬種に及んだといふ。また昭和五年頃から山岳小説等の翻譯、スポーツ隨筆、更に創作にも筆を執り、著譯書二十餘冊がある。

譯書、山岳短篇小説集『二人と死』（昭和六年六月十五日四六書院）、『銀嶺のふし』（昭和八年七月十五日朋文堂）、『最後の蠟燭』（昭和十二年十一月五日朋文堂）、リヒトホーヘン著『荒鷲の母』の訳、『道の大戦日記』（昭和十二年八月二十五日日本公論社）等、小説は『道はれ六戀・狂亂篇』（昭和二十二年三月二十日長野・北信書房）、『山の叫ぶ声』（昭和二十年七月二十日朋文堂「旅窓新書」）等、

他に『雪の王者』シエナイダーは語る』（昭和五年十一月十一日三省堂）、『クラウゼヴィッツの兵學・上』（昭和十七年九月二十五日ダイヤ



モンド社「國防科學叢書」）、『山岳小説』（昭和十八年十一月二十日墨水書房）、『世界探偵秘史』（昭和二十一年一月十五日長野・星書房長崎支社）、『郵便切手百科辭典』（昭和二十九年十一月三日啓徳

社出版部(株)。